



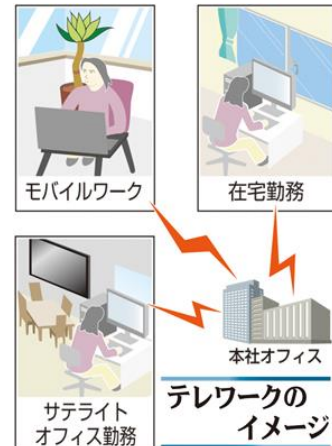
テレワークって？

◆場所を選ばない働き方

新聞記事の見出しでこの経済用語を見つけ、興味を持ったブン子さん。北陸経済研究所（富山市）の辻野秀信主任研究員に質問してみました。

Q－何を意味する言葉かな。

A－「テレ＝離れた場所」と「ワーク＝働く」の造語だよ。働く場所を選ばず、どこでもできる仕事の進め方を言うんだ。国が進める「働き方改革」に有効な手段として期待されているんだよ。政府は普及の一環として、3年後に控えた東京五輪での交通混雑を回避する意味もあって、開会式が行われる7月24日を電話やパソコンなどを使って自宅や会社外で働く「テレワーク・デイ」と定め、今年からスタートしたんだ。



Q－どんな働き方を言うの。

A－企業が導入を進める目的と運用形態はさまざまだよ。分類すると主に三つ。営業など頻繁に外出する職種において効率的に業務ができる「モバイルワーク」、子育てや介護などと仕事を両立できる「在宅ワーク」、地方に就業環境を用意し、人材確保や災害時のリスク分散にもつながる「サテライトオフィス」があるよ。

Q－良い点と課題は何だろう。

A－テレワークは働き方の可能性を広げる方法の一つ。従業員のワークライフバランス（仕事と家庭の調和）が充実でき、優秀な人材を獲得したい企業にとっては戦略の一つにもなり得るんだ。一方で「持ち帰り残業」の温床とならないか、労務管理をどうするかといった制度面の整備が欠かせないだろうね。

Q－県内で始まっているのかな。

A－県は2015年から試験的に「在宅ワーク」を始めているよ。北陸電力や北陸銀行も試験導入すると発表したんだ。県内をはじめ北陸には元々、テレワークを技術面で支えるIT企業が多い。首都圏で受注したシステム開発業務を富山県内に勤務するスタッフが開発したケースもあるよ。

Q－県内でも広がるかな。

A－テレワークは働き方改革を実現する方法の一つだけど、首都圏と地方との仕事を結ぶ手段として有効だよ。テレワーク環境が社会に広く浸透してコミュニケーション面で全く違和感がなくなると、本社を東京に移転するより、地方に移転する企業が増えてくるかもしれないね。